

飛鳥資料館 秋期特別展 「よみがえる飛鳥の工房—日韓の技術交流を探る」

飛鳥寺の東南にあった近世の溜池「飛鳥池」の池底の発掘調査では、膨大な廃棄物層、多数の炉跡などが次々とみつき、これまでに前例のない古代の総合工房遺跡の姿があきらかになりました。出土した木簡からは、飛鳥池工房遺跡が飛鳥の宮廷や古代国家を物質面で支えた一大工房群であったと考えられます。

近年、韓国でも生産工房遺跡の調査が進み、飛鳥と百済のガラスの生産技術の類似性と親近性があきらかになりつつあります。そこで、今回の展覧会では、膨大な出土品の中から、日韓の文化交流や技術交流の実態を示す金銀やガラス、銅製品等を中心にご紹介します。奈良文化財研究所が実施してきた発掘調査の中でも白眉と言ふべき飛鳥池工房遺跡の調査研究の成果と、日韓共同研究の成果をご覧ください。（飛鳥資料館 石橋 茂登）

会 期：10月5日（金）～12月2日（日） 月曜休館（10月8日（月・祝）は開館し翌平日を休館）
開館時間：9：00～16：30

イベント：11月9日（金）13：30～「古代の木工技術に迫る」 ※事前申込制

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/ お問い合わせ：☎0744-54-3561



平城宮跡資料館 秋期特別展 「地下の正倉院展—荷札木簡をひもとく—」

今年も平城宮跡資料館では、秋期特別展として「地下の正倉院展」を開催します。秋の恒例となった本展には、近畿圏のみならず、毎年遠方からも多数の方々にご来場いただいております。そうした全国各地から平城宮跡を訪れてくださったみなさまに、木簡にもっと親しみをもってもらいたいと思い、今年度は、全国津々浦々から送られた荷札木簡をご覧いただく展示を企画しました。

荷札木簡とは、税として都に納められた荷物に付けられた木簡です。それらには、様々な物品がみえ、大きさや形状は荷物によって異なります。また、荷札にみえる特産物、木簡の樹種からは、奈良時代の豊かな地域色をうかがうこともできます。都に届けられた荷札を多くの方々にご覧いただき、木簡を身近に感じていただければ幸いです。

（都城発掘調査部 桑田 訓也／企画調整部 座覇 えみ）

会 期：10月13日（土）～11月25日（日）月曜休館

（Ⅰ期）10/13（土）～10/28（日）（Ⅱ期）10/30（火）～11/11（日）（Ⅲ期）11/13（火）～11/25（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

ギャラリートーク：（Ⅰ期）10/19（金）（Ⅱ期）11/2（金）（Ⅲ期）11/16（金）各日14：30～

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heiho/museum/ お問い合わせ：☎0742-30-6753（連携推進課）



■ 記 録

文化財担当者研修（専門研修）

- 古文書歴史資料調査基礎課程
2018年6月18日～6月22日 12名
- 近現代建築保存活用課程
2018年7月9日～7月13日 24名
- 木質文化財の科学的調査基礎課程
2018年7月23日～7月27日 8名
- 地質考古調査課程
2018年9月3日～9月7日 29名
- 文化的景観調査計画課程
2018年9月10日～9月14日 10名

飛鳥資料館 春期特別展

4月27日（金）～7月1日（日） 8,816名
「あすかの原風景」

平城宮跡資料館 夏のこども展示

7月21日（土）～9月2日（日） 9,205名
「たいけん！なぶんけん」

飛鳥資料館 夏期企画展

7月27日（金）～9月2日（日） 2,428名
「飛鳥のいきもの」

現地説明会

飛鳥藤原第198次調査（大極殿院北面回廊・北門）
2018年9月15日（土） 694名

本庁舎竣工記念式典（招待）

6月20日（水） 233名

■ 最近の本

- 馬場 基『日本古代木簡論』 2018年6月
吉川弘文館
- 海野 聡『建物が語る日本の歴史』 2018年8月
吉川弘文館

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 https://www.nabunken.go.jp

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2018年9月